

1 学校教育目標	
教育目標	「ふるさとを愛し、自信をもって活躍できる生徒の育成」
中・長期目標	① 地域に愛され、信頼される学校づくりに努める。 ② 安全で健康な心温まる真に楽しい学校づくりに努める。 ③ 魅力ある学校づくりの創造に努める。 ④ 開かれた学校づくりに努める。
めざす学校像	「全国に誇れる学校」「地域とともにある学校」

2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)	
<p>・「み・そ・あ・じ」の合言葉のもと、落ち着いた学校生活を送っている。反面、自己肯定感をもたない生徒に対して、様々な手立てを講じる必要がある。</p> <p>・「地域とともにある学校づくり」をめざし、コミュニティ・スクールや小・中連携をより積極的に進める必要がある。</p> <p>・学力向上については、基礎学力が不十分な生徒が多く、授業改善の工夫、家庭学習の定着が昨年度に引き続いての課題である。</p> <p>・不登校生徒が在籍しており、保護者との連携をより密にするとともに、教育相談の充実を図ることが今後の課題である。</p>	

3 本年度重点を置いて目指す成果・取り組むべき課題	
<p>① 学力の向上 …… 学力テストで全国・県の平均を上回るために、生徒の学習意欲を喚起させるための授業の工夫および家庭学習の習慣化を図る必要がある。</p> <p>② 豊かな心の醸成 …… 全教職員で道徳の授業の工夫を図るとともに、全教育活動を通じて心の教育の推進に努める必要がある。</p> <p>③ 積極的な生徒指導の推進 …… 「み・そ・あ・じ」の合言葉のもと、基本的な生活習慣の確立を図る必要がある。</p> <p>④ 保護者や地域との連携を深めた教育活動 …… 保護者や地域等との連携を継続し、定着させる必要がある。(小中連携を含む)</p>	

4 自己評価						学校関係者評価	
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
学校教育目標	「ふるさとを愛し、自信をもって活躍できる生徒の育成」の具現化を図る	<ul style="list-style-type: none"> 各教科、道徳の時間、特別活動、総合的な学習の時間等、全教育活動を通じて、ふるさとを愛する心を育て、自己肯定感をもたせる指導を行う。 生徒会諸活動や諸行事等の取組を通して、自発性・自主性を養う。 生徒の活躍を校長室だより「湯田の風」、学年だより、湯田中ホームページ、掲示板等を通じて、家庭や地域に情報を積極的に発信する。 学校を地域に積極的に開く。 全校集会で生徒に講話をするとともに、生徒の活躍ぶりを披露する。 	・「ふるさとを愛している」「自信をもって頑張っている」という生徒の回答率が80%を超える。 4: 十分達成できている(80%以上) 3: おおむね達成できている(60%以上) 2: やや不十分である(50%以上) 1: 不十分である(50%以下)	4	・「ふるさとを愛する心」については、87%の生徒が肯定的な回答であった。また、「自信をもって活躍できる態度(自己肯定感・自己有用感)」についても、88%の生徒が肯定的な回答であった。次年度に向けて、学校の実態、生徒や保護者・地域の思いを十分に踏まえ、学校教育目標の達成に向けて、取組の具現化を図っていきたい。	・地域行事の参加を通じ再調している姿が頼もしい。ほとんどの生徒が自己肯定感・自己有用感を持っていると感じる。 ・地域、大人から見守られているという安心感が生徒にお互いにつながっているのではないかと感じる。多くの人に接して生徒の生活にゆとりが見られる。	4
	思考力・判断力・表現力の育成の観点から授業改善を図る	<ul style="list-style-type: none"> 教職員全員が研究授業を実施し、学ぶことの楽しさ・学習意欲を喚起する質の高い授業づくりに取り組む。 	・生徒による授業評価で「授業が楽しい」「授業がわかる」の回答率が80%を超える。 ・生徒による学校評価「自分に自信がもてるようになった」の回答率が80%を超える 4: 十分達成できている(80%以上) 3: おおむね達成できている(60%以上) 2: やや不十分である(50%以上) 1: 不十分である(50%以下)	4	・「授業が分かりやすい」という設問に対しての肯定的な回答は87%、「意欲をもって学習に取り組んでいる」の設問についても87%が肯定的な回答であった。確かな学力の定着、向上を図るため、教職員も全体授業研究会に加え、ミニ授業研究会を重ね、授業力の向上に努めている。現状に満足せず、常に授業改善を図っていく必要がある。特に学習の苦手な生徒への手立てに工夫が求められる。	授業改善に向けて、①生徒が自主的に動いて作り出す授業にするにはどのような授業をすればよいか、②生徒がやる気を出せるための授業の仕組みは、③どこがわからないかを言える生徒の育成などを視点に取り組みまれては。 ・学校課題にある「基礎学力が不十分な生徒」の学力が向上しているのかが不明だ。	4
学習指導	やまぐち学習支援プログラムや家庭学習の定着を通して、学力の向上を図る	<ul style="list-style-type: none"> やまぐち学習支援プログラムを計画的に活用する。また、家庭学習の定着を図るため、生徒一人一人の課題やノートの確認を行い、個に応じた指導を行う。 	・全国学力・学習状況調査の平均正答率が全国平均正答率をすべて5ポイント上回る。 4: 十分達成できている(5ポイント上回る) 3: おおむね達成できている(3ポイント上回る) 2: やや不十分である(平均並である) 1: 不十分である(平均を下回る)	3	・正答率を全国平均と比べると、国語のA問題(知識)は0.9ポイント上、B問題(活用)は1.8ポイント上、数学のA問題は5ポイント上、B問題は3.1ポイント上、理科は3.9ポイント上であった。おおむね良好ではあるが、平均にはかなりとられず、個人の結果分析のもと、個に応じた指導を充実していく必要がある。また、家庭学習習慣の定着にも課題が残るため、手立てが必要である。	・「教える」と同時に「学ぶ」意欲に満ちている教職員の皆さんの姿こそが、子どもたちや御家族に届いていると信じている。 ・学校全体で個に応じた指導をどのような方針で実施されているのか、また、指導の機会を確保しているのかなどが課題ではないか。	4
	基本的な生活習慣の確立を図る	<ul style="list-style-type: none"> 「み・そ・あ・じ」が生徒自身のものとなるよう、生徒会活動とリンクさせて指導を行う。 生徒指導主任、学年主任、学年生徒指導主任を核として、生徒に関する情報の共有化と早期対応に取り組む。 	・「『み・そ・あ・じ』が徹底されている」という生徒の回答率が80%を超える。 ・「生徒に関する情報共有化と早期対応に努めている」という教職員の回答率80%を超える。 4: 十分達成できている(80%以上) 3: おおむね達成できている(60%以上) 2: やや不十分である(50%以上) 1: 不十分である(50%以下)	4	・身だしなみの徹底率(97%)、無言清掃の徹底率(99%)、挨拶の徹底率(94%)と、生徒の肯定的な回答の割合は高い数値を示している。生徒会活動や諸行事への自発的な取組に関しても、91%の生徒が肯定的な回答をしている。引き続き、生徒会と連携を図り、自主性・自発性を図りながら、「み・そ・あ・じ」の質を高めていきたい。	・校内活動において、子どもたちが自主性・自発性を発揮していることは、地域で活躍する子どもたちの姿から想像することができ、地域がもっと子どもたちを評価してあげてほしいと痛感している。 ・個々の抱えている課題を常に見守り、指導・支援に力を入れてほしい。	4
生徒指導	教育相談の充実を図る	<ul style="list-style-type: none"> 教育相談の時間を十分確保し、一人一人の生徒に寄り添った教育相談に努める。 	・生徒による学校評価で教育相談の肯定率が80%を超える 4: 十分達成できている(80%以上) 3: おおむね達成できている(60%以上) 2: やや不十分である(50%以上) 1: 不十分である(50%以下)	4	・生徒の「教育相談」に対する肯定的な回答は92%と高かった。今年度も、担任だけでなく、管理職も含めて希望する教職員との教育相談も実施した。今後、教育相談の実施時期や、スクールカウンセラーとの連携等を検討し、さらに生徒理解の充実をめざしていきたい。	・教職員の皆さんが、子どもたちを信じてくれていること表れだと思ふ。肯定的な回答の高さは、心の内を話せる信頼関係が築けていると理解したい。今後も一人ひとりに寄り添ったご指導をお願いしたい。	4
	「道徳の時間」の授業の工夫を行う	<ul style="list-style-type: none"> 道徳の授業の工夫改善に取り組む。 管理職も含め、全校体制で道徳の授業を実践する。 道徳の授業を核として、総合単元的な道徳教育を行う。 	・「全校体制で生徒の豊かな心の育成にあたっている」と回答する教職員の回答率80%を超えている 4: 十分達成できている(80%以上) 3: おおむね達成できている(60%以上) 2: やや不十分である(50%以上) 1: 不十分である(50%以下)	4	・道徳の時間の確実な実施と、管理職を含めた全教職員が道徳の授業を行うなど、組織的に取り組んだ。また、道徳の時間だけでなく、体験的な学習も導入しながら総合単元的な道徳にも取り組めた。来年度は、特別の教科道徳として教科化する。これまでの取組を踏襲しつつ、評価その他、効果的な道徳教育の研究に努め、豊かな心を育成していきたい。	・道徳の授業改善は喫緊の課題です。考え、議論する道徳への転換がなされているでしょうか。今後、是非参観したい。 ・個々の生徒の変容をどう表現させるか、そのための授業の仕組み・発問を考えてほしい。 ・「道徳教育」こそ、地域の力を活用すべきではないかと感じる。	4
心の教育	朝読書を通して「心の教育」の充実を図る	<ul style="list-style-type: none"> 学校図書館の本を活用した朝読書を毎日実施する。 	・「生徒の読書の習慣が図られている」と回答する教職員の回答率80%を超えている 4: 十分達成できている(80%以上) 3: おおむね達成できている(60%以上) 2: やや不十分である(50%以上) 1: 不十分である(50%以下)	4	・教職員の肯定的な回答は80%であった。朝読書を契機に、生徒の読書の習慣も少しずつ定着してきている。引き続き読書活動を通して、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにするなど、心の教育の推進に努めたい。	・習慣化ができています。どんな本を読ませるか、また、読後の取組など、今後の取組に期待している。 ・良書にたくさん触れるよう、朝読書の時間を大切に過ごしてほしい。家庭での読書はどうだろうか。	4

保護者・地域との連携	開かれた学校づくりを推進する	<ul style="list-style-type: none"> ○ 校長室だより「湯田の風」を毎週1枚以上発行するとともに、「開かれた校長室」「開かれた学校」に取り組む。 ○ 学校評価や保護者アンケートを計画的に実施し、学校運営に生かす。 ○ 学校公開日を毎学期設定し、保護者による授業評価を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校のことがよくわかる」と回答する保護者の回答率が80%を超える 4: 十分達成できている(80%以上) 3: おおむね達成できている(60%以上) 2: やや不十分である(50%以上) 1: 不十分である(50%以下) 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・「たよりやメール等、積極的に情報発信している」と回答した保護者は96%と高く、肯定的な回答が多かった。学校公開日も毎学期設定し、保護者による授業評価も実施することができた。今後、安心安全な学校づくりと保護者の方々への情報発信の方法をさらに工夫していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校長室便りやホームページにおいて、中学校の情報発信がよくされていると思う。 ・学校が安定すると学校公開日の参観者が減少する事例を聞いたことがある。たより等はとても充実しているが、新学習指導要領がめざす授業について保護者に知ってもらいたい。 	4
	湯田中版コミュニティ・スクールを推進する	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「学校運営」「学校支援」「地域貢献」をベースに、地域・家庭と連携・協働した取組を積極的に進める。 ○ 地域の教育力を活用するとともに、学校が主体となった地域貢献を積極的に進める。 ○ 学校運営協議会との連携を図った学校運営を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「地域との連携に努めた」と回答する教職員の回答率が80%を超える 4: 十分達成できている(80%以上) 3: おおむね達成できている(60%以上) 2: やや不十分である(50%以上) 1: 不十分である(50%以下) 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の肯定的な回答は80%を超えた。昨年度に引き続き、「地域貢献」として、「湯田中学校ひろば」や「生徒会主体によるVS活動」「地域行事への参加」など積極的な取組を行った。地域からも感謝され、マスコミにも多く取り上げられた。また、昨年度作成・配布した小中連携カリキュラムをもとに、育てたい力等の啓発を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小中連携カリキュラムを活用した指導の実態はどうなっているか、また、このカリキュラムを生徒が理解し、実践に努めているかに疑問が残る。 ・家庭との連携の強化として、PTA活動に工夫が必要ではないか。 ・発想の意外性と、即実行性が、素晴らしい時間・場を作り上げている。 	4
その他	部活動の充実をめざす	<ul style="list-style-type: none"> ○ 部活指導だけでなく、人間教育の一環として部活動を位置づけ、積極的に推進していく 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒による学校評価で「部活動での人間的成長が図られている」という回答率が80%を超える 4: 十分達成できている(80%以上) 3: おおむね達成できている(60%以上) 2: やや不十分である(50%以上) 1: 不十分である(50%以下) 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動において人間的成長を感じた生徒は92%、保護者は85%が肯定的な回答をしており、一定の成果は上がっている。また、週1休養日を確実に設定し、科学的・合理的な運営に努めた。部活動への参加をとおして、学校生活が豊かなものになるように、更に充実させたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ストレス耐性、折れにくい心づくり、挑戦、達成感、自己有用感など、部活動を通して様々なことが学べるため、部活動での指導は重要と考える。 ・楽しく取り組める空気が一番大切ではないか。部活動に対する考え方について、教員と保護者が熟議していくことが重要だ。 	4
業務改善	学校の組織等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 様々な分掌、委員会、学年内の組織を洗い出し、業務の内容を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員による「各分掌、学年・学級相互の連携が円滑で、学校全体として意欲や力を発揮できる組織である」という回答率が80%を超える 4: 十分達成できている(80%以上) 3: おおむね達成できている(60%以上) 2: やや不十分である(50%以上) 1: 不十分である(50%以下) 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の連携・協働体制はあるが、業務内容の軽重等、偏りがあるのは否めない。働き方改革の視点からも、業務の効率化や平準化を図り、効果的な分掌組織を構築することが急務である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の先生がそれぞれ頑張っているから、今の湯田中があると思う。いざという時にチームとしての動きができるようにすることも必要ではないか。連携・協働で改善に努めてほしい。 ・思い切った分掌組織の改革が必要と思う。(PTA、学校運営協議会を含めた) 	3
	機能的で行動的な組織体制を構築する						
	日常的な業務	<ul style="list-style-type: none"> ○ 議題の見直し(資料配布のみ、職朝で連絡等)、簡潔で明快な資料の作成と配布日時、提案の仕方等を検討し、1時間以内の会議をめざす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「勤務時間内に職員会議が終了した」割合が80%を超える 4: 十分達成できている(80%以上) 3: おおむね達成できている(60%以上) 2: やや不十分である(50%以上) 1: 不十分である(50%以下) 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・勤務時間内に職員会議が終了した割合は80%を超えている。提出議案の精選に努めるとともに、企画委員会でしっかりと議論した上で修正をかけて職員会議にあげているので、スムーズに進行できている。議題の精選や提案の仕方については、引き続き検討を要する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・企画委員会でのしっかりと議論が鍵になると思います。 ・多忙な中でも改善の取組を継続し、評価できる。 	4
	会議時間を短縮する						
勤務状況	<ul style="list-style-type: none"> ○ 悩みが話しやすく、風通しのよい職場環境をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員による「管理職が長時間勤務の防止や休暇を取りやすいように配慮している」という回答率が80%を超える 4: 十分達成できている(80%以上) 3: おおむね達成できている(60%以上) 2: やや不十分である(50%以上) 1: 不十分である(50%以下) 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・「風通しのよい職員室」「開かれた校長室」をめざして、管理職による教職員への声かけをはじめとした人間関係づくりに配慮している。長時間労働については、月の時間外業務が80時間や100時間を超える教職員もいるが、夜遅くまで残ることはほとんど無い。時間外業務時間の削減や年休消化等について、工夫が求められる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・働き方改革に向け、教員でなければできない仕事とは何か等を、全員で議論することも必要なのかなと感じる。 ・教職員の心身の健康が、地域家庭にとっての安心安全な学校につながることで、配慮願いたい。 	4	
長時間勤務をする教職員の減少、メンタルヘル스에配慮した取組を推進する							

5 学校評価総括(取組の成果と課題)

【学校教育目標】「ふるさとを愛する心」については、生徒の肯定的回答が9割を超え、「自信をもって活躍できる態度(自己肯定感・有用感)」についても、生徒の肯定的回答が9割近い。教職員・生徒・保護者が同じベクトルで進むことができたと思う。今後、保護者や地域の思いや願いを受け止めながら、取組の具現化を図ってきたい。

【学習指導】確かな学力の定着、学力向上に向け、全校研究授業、ミニ研究授業を実施し、「わかる授業づくり」に取り組んできた。おおむね良好であるが、基礎学力の定着があまりできていない生徒も見られる。個人の結果分析のもと、個に応じた指導を展開していく必要がある。家庭学習の取組にも個人差がある。

【生徒指導】チャレンジ目標「み・そ・あ・じ」を意識し、生徒会活動や各行事で生徒の自治能力を育てる取組が効果的であった。特に「み・そ・あ・じ」については、生徒は自分を正すことにつながっていると肯定的な回答が9割を超えるなど非常に高い。大きな課題は不登校生徒がどの学年、どの学級にもおり、家庭との連携が必要である。

【心の教育】管理職を含め、全教員が共通理解の下、道徳の授業を実践しており、成果を上げてきた。今後、「道徳の教科化」に向け、道徳授業の進め方や評価のあり方について研修を深めていく必要がある。読書活動を通じて読書の習慣が少しずつ定着してきた。引き続き読書活動を通して、感性を磨き、心の教育を進めていかなければならない。

【保護者・地域との連携】コミュニティ・スクールの積極的な取組により、大きな成果が得られた。なかでも「湯田中学校ひろば」や「生徒会主催によるVS活動(地域清掃活動)」「地域の行事への積極的な参加」さらには、校長発行の校長室だより「湯田の風」による積極的な情報発信により、保護者、地域との連携につながっている。

【業務改善】働き方改革をめざし、職員会議などの会議を勤務時間内に終わらせるように議題の精選等工夫し、成果が見られた。

6 次年度への改善策

【学校教育目標】めざす学校像である「全国に誇れる学校」「地域とともにある学校」を柱とし、具体的な達成目標を設定、生徒の愛校心や郷土愛、自己肯定感、自己有用感を高めていく。教職員も同様である。

【学習指導】今年度の課題の分析を進めることと新学習指導要領の移行期間に入るため、改訂の趣旨や内容を踏まえた授業を展開していくことが重要である。また、生徒による授業評価の定着、家庭学習の習慣化をめざす具体的な取組、地域住民や大学生からの学習支援等、多様な取組を積極的に展開し、総合的に学力の向上を図りたい。

【生徒指導】チャレンジ目標「み・そ・あ・じ」を徹底することが生徒の基本的な生活習慣の基盤づくりにつながる。その中でも「あ・あ・あ・あ」は内外に発信していくとともに、日々の学校生活で教職員が生徒と積極的に関わりながら、よい場面を見つけ、褒めることで生徒が自己肯定感をもてるように心がける。

【心の教育】管理職を含め、道徳の授業のねらいやつけたい力を再確認し、共通理解した上で、現在の授業の「型」を再度見直していく。さらに、道徳の教科化に向け、全教職員が質の高い授業を展開し、道徳教育の充実に努める。

【保護者・地域との連携】コミュニティ・スクールのさらなる充実を求め、地域行事への積極的な参加、保護者や地域住民が学校で生徒と関われる場の設定により、連携を深めていきたい。

【業務改善】働き方改革を進めるため、部活動のあり方や業務の効率化を一人ひとり意識改革を進め、時間外業務時間勤務の短縮をめざす。また、管理職が積極的に声をかけ、業務時間削減の意識を高めていく。